

点から線、



そして面へ

—はじめに—

富山県滑川市は、日本アルプスの山々を背にして富山湾に臨む、四季折々の美しい自然と豊かな風土に恵まれた地である。かつては複数の映画館や商店、銀行が立ち並び「瀬羽町銀座」の愛称で親しまれた。現在も町の通りには8件の国登録有形文化財となった建物が残り、歴史的な町並みが感じられる。

—まちの現状と課題—

現在ではほとんどが空き家となり建物の老朽化や住民の高齢化により、町の空洞化が進んでいる。一方で、空き家を利用した新規店舗参入の動きや、NPO 法人滑川宿街並み保存と活用の会による地域発展活動の取り組みも進められている。また、現在は郊外にバイパスがつけられているが、信号もないこの通りは、朝夕の通勤通学の時間などは交通量が多い。

—設計の目的—

こうした背景を踏まえて、多くの人の目に触れるこの通りを整備し、新たな機能を持つ施設をつくることで、より賑わいを見せる町へ近づくと考える。本設計では、空き家や空地の新たな利用法や、歴史的建造物などの修景案の提案を行い、町の発展を促進させることを目的とする。

—敷地概要—

有形文化財や新規店舗が並ぶ瀬羽町の目抜き通りを対象とする。間口が狭く、奥行きが長い敷地に連続して軒を連ねた町並となっている。

—設計内容—

01 カフェぼんぼこさ

国登録有形文化財の旧宮崎酒造内にカフェを設計

02 一棟貸古民家

瀬羽町の町家の特徴を捉えた宿を設計

03 町家写真館

町屋特有の空間を活かして思い出の写真を撮影できる写真館を設計

04 瀬羽町銀座キネマ

映画館があった敷地にキネマを再建

05 町並修景

修景パターンの提案



一 国登録有形文化財

旧宮崎酒造は切妻造り平入棧瓦葺きの町家で、昔ながらの大規模な商家の特徴を備えた建物であり、国の有形文化財にも登録されている。現在では、NPO 法人主催のイベントなどの開催場所として、瀬羽町を賑わせる場所の一つとなっている。



一 ベトナム・ホイアの町並み

ベトナム中部に位置するホイアは、1999年に世界遺産に登録された。約180年前の町並みを今に残す旧市街で、日本をはじめ、中国やヨーロッパ諸国の貿易商が滞在したため、世界各国の建築様式が点在している。16世紀には1000人以上の日本人が住んでいたとされ、日本とのゆかりが深い町でもある。ランタンが灯る幻想的な景色はホイアを代表する名物となっている。



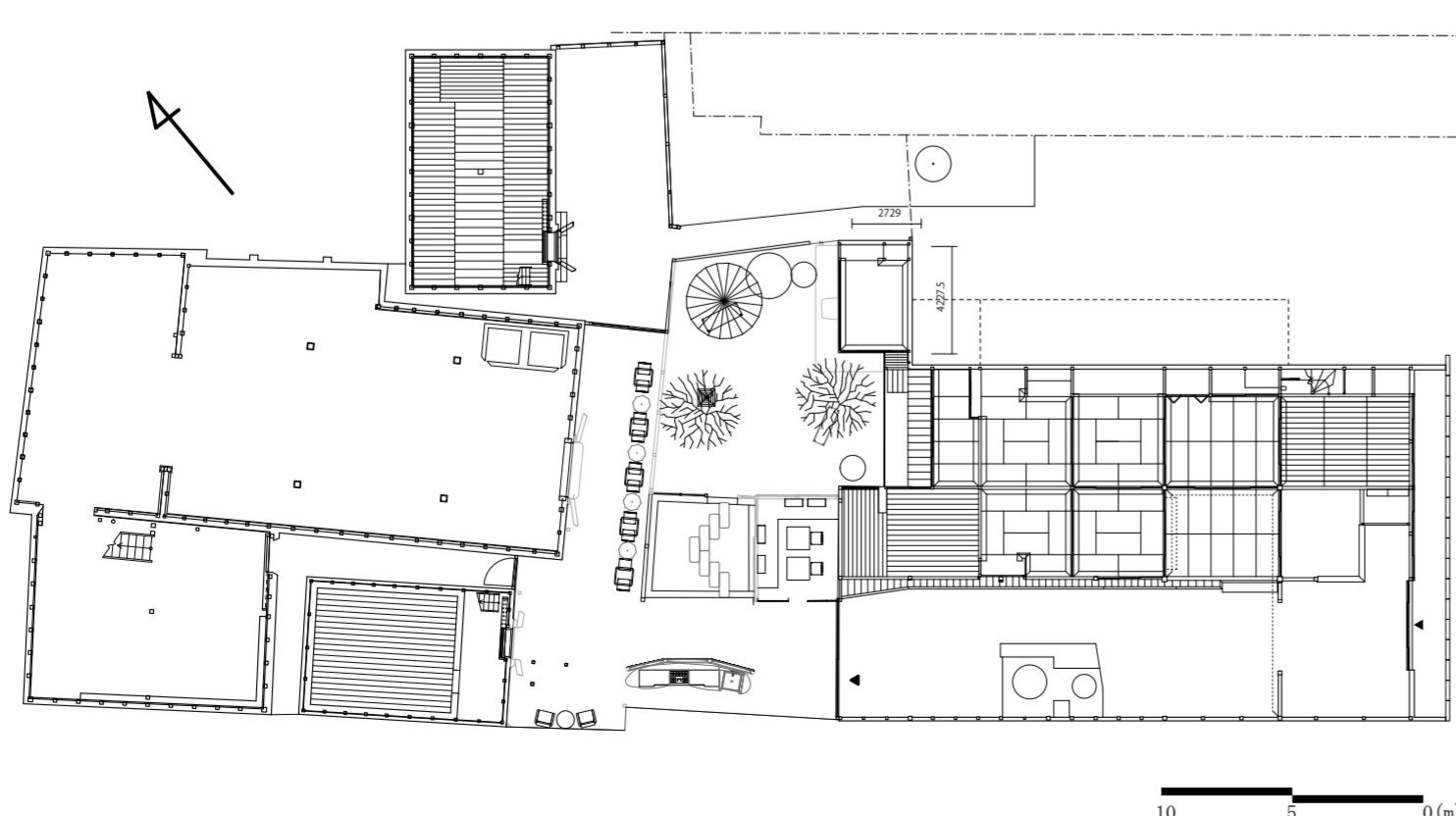
一 コンセプト

「二つの顔を楽しむ」

旧宮崎酒造で開催されるイベントの一つに「ベトナムランタン祭り in 滑川」がある。これは、瀬羽町がランタンで知られるベトナムホイアの町並みに似ていることから始まった。年に一度のこの日は、沢山の色鮮やかなランタンが建物内外に吊るされ、瀬羽町を賑わせている。こうした催しが行われる場所にランタン祭りをより魅力的なものにし、一年を通して日本とホイア二つの顔が楽しめる場所を設計する。



入り口から入って右手にある個室空間は、ガラス戸を設け、視線の通りを程よく確保した。中庭の光の差し込みを感じられるよう大きな窓を取り付け、個室でありながらも開放感ある空間とした。黄色の壁は、ホイアの街並みで見られる建物をイメージした。椅子やテーブルもエスニックなものとし、ランタン祭りの際には写真映える空間となるようにした。



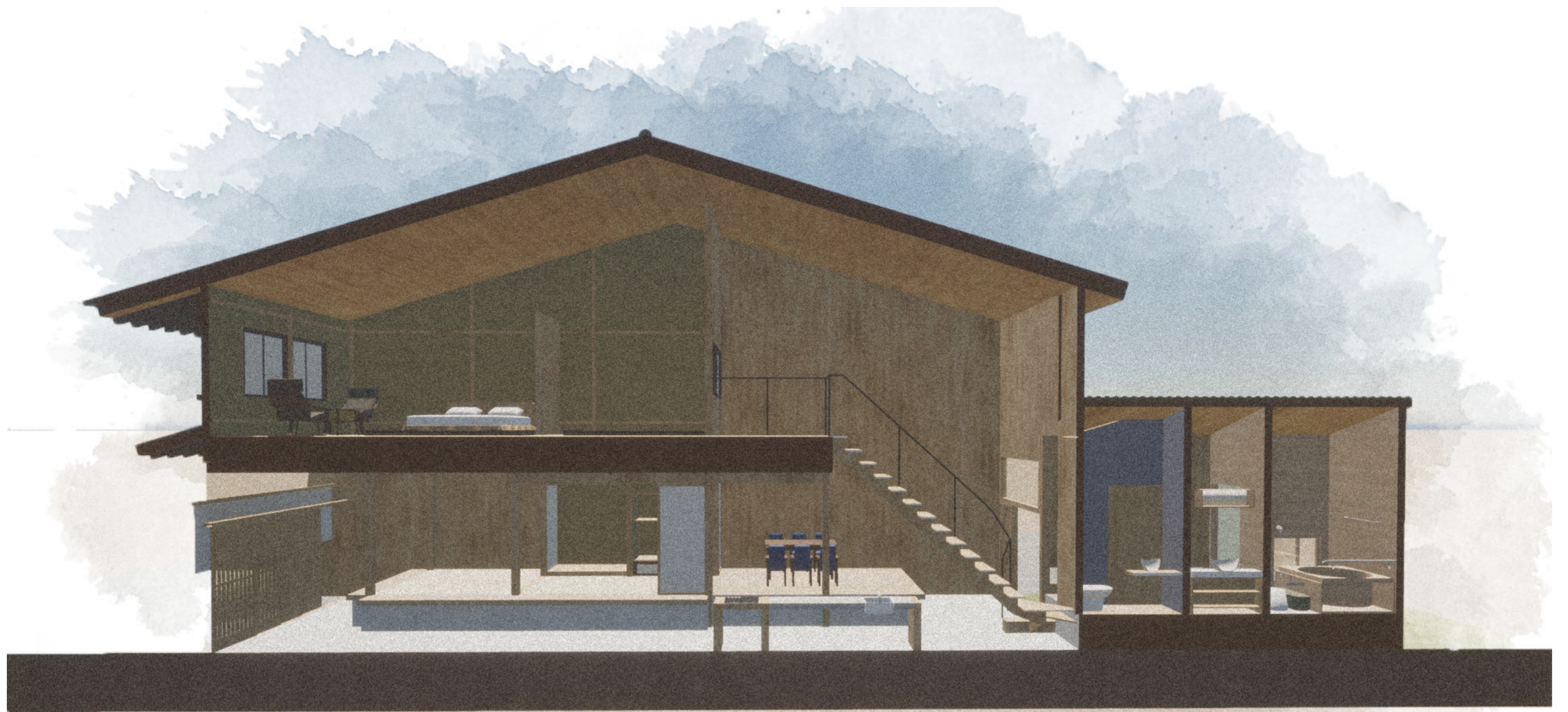
ホイアをイメージした池。天気の良い日は扉を開け心地よい風を感じることができる。



池を抜けると日本庭園が広がり、縁側に座りゆったりとした時間を過ごせる。この先はキネマへと続き、周辺との回遊性を持つ。



窓際席は座る位置によって異なる景色が楽しめる。



ーコンセプトー

「住みたい宿」

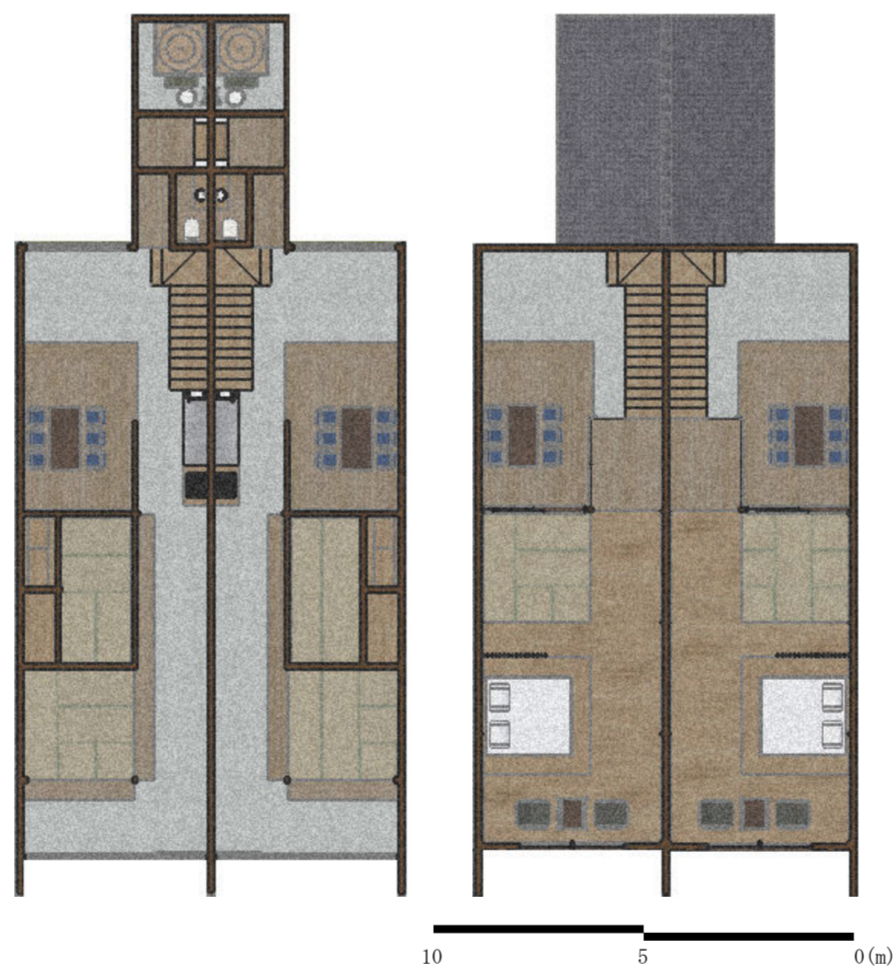
瀬羽町の町家造りの特徴を取り入れ、泊まる人に町家の良さを体感してもらい、1日だけの限定的なものではなく、これからも住みたいと思い、瀬羽町に足を運ぶきっかけになる施設を目指した。

ー表情を変える外観ー

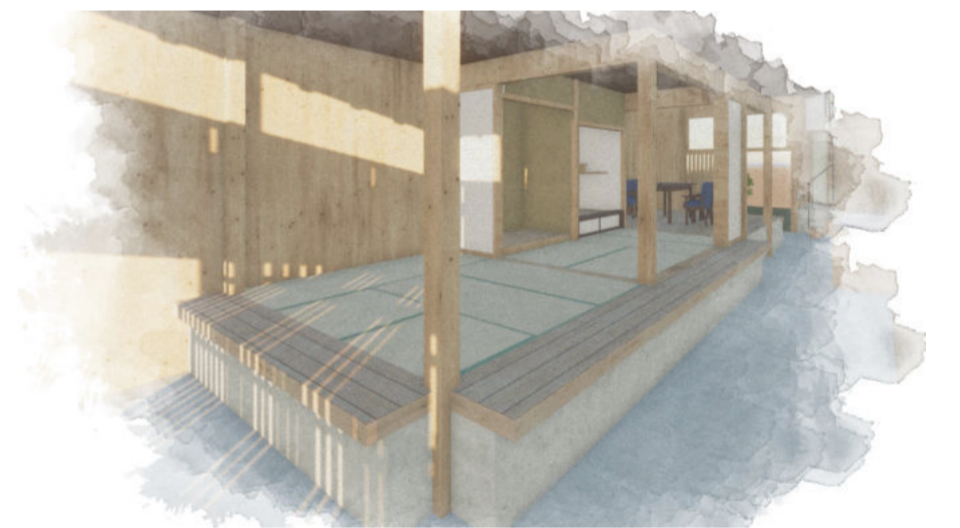


宿の時と店の時で下げる暖簾を変えられる。また、出店者によって下げる暖簾を変えることができるため、店を持っていなくても、それぞれの個性を表現することができる。その都度変わった雰囲気の外観となる。

また、格子のガラス戸や大きな窓を取り付けたため、開口部を広くとれるだけでなく、夜間の中から漏れる光が町の通りに明かりを灯す。



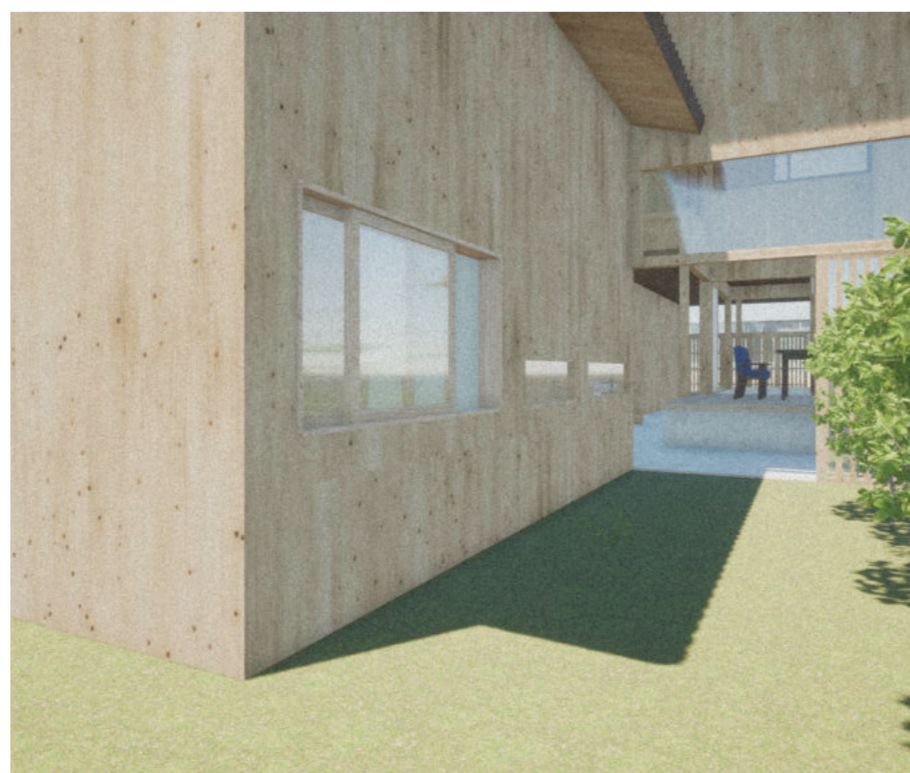
ー平面計画ー



瀬羽町の町屋の特徴を捉えた造りとし、表通りに面した部分を「ミセ」、そこから奥まで続く通り土間に沿って部屋を配置した。また、「ミセ」部分は短期間で出店を行う場としての機能も備えた。土間と庭を繋ぐ一階部分は吹き抜けとし、窓を取り付け、採光を確保した。正面部分は、ガラス戸を用いて開口部を広くとり、ミセとして使う際にも適した造りとした。



吹き抜けにし、光を多く取り入れられる開放的な空間。



天気の良い日には戸を開け、外での食事や遊びが楽しめる。



浴室からは中庭が見渡せ、普段とは違った贅沢な時間が過ごせる。

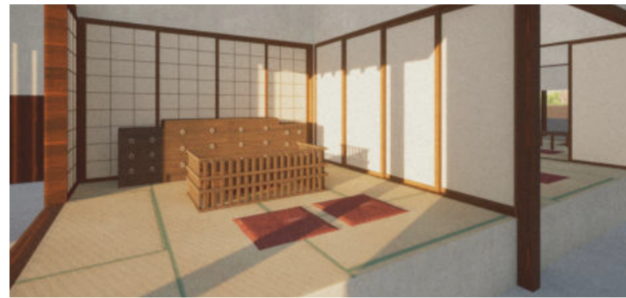
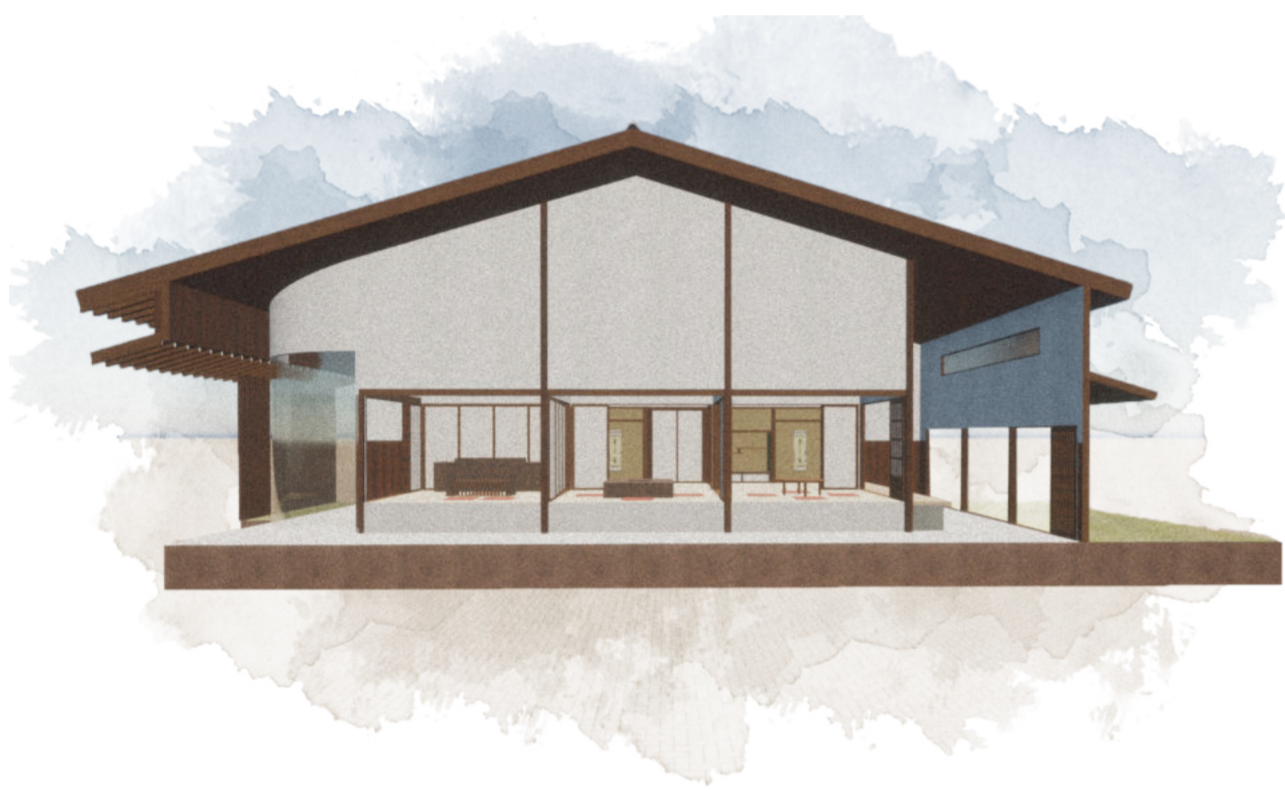
ーコンセプトー

「時間旅行」

昨今、本格的な写真を自分たちだけで撮影できる施設が人気を集めている。ここでは、町屋特有の空間を活かして、自分たちだけの思い出の写真を撮影できる場所とする。時代を超えたレトロな写真が撮れる、瀬羽町独自の在り方に変化させた一風変わった写真館を目指す。



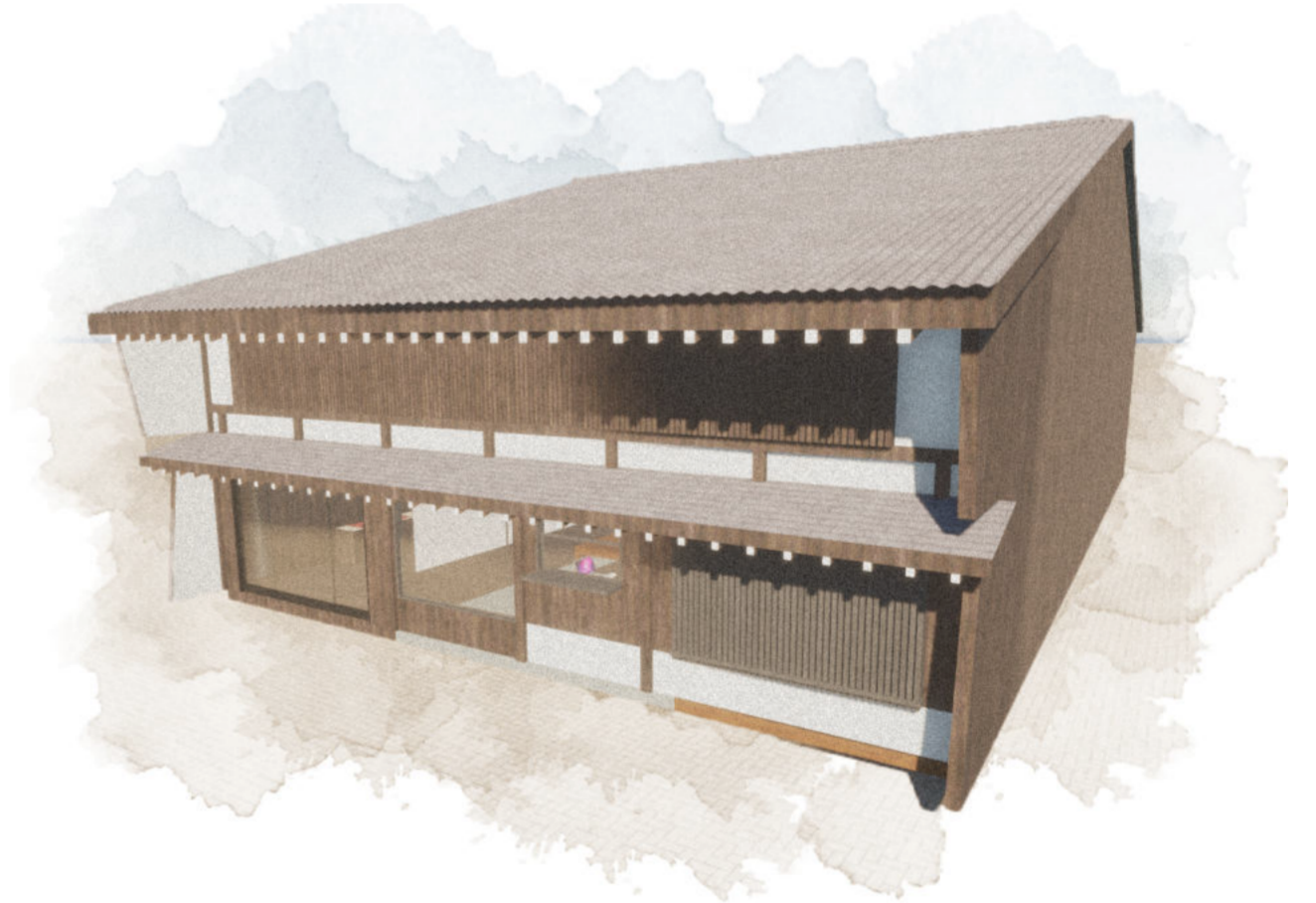
ガラスと格子を組み合わせ、入りやすさと、程よく光が差し込む外観とした。入り口からは帳場が置かれた部屋が見える。建物内は帳場や囲炉裏、屏風などの小物を揃え、昔ながらの雰囲気を出した。日の入りには、縁側に座り、夕焼けと共に撮影が楽しめる。一つの写真や映像がきっかけとなり、多くの人が足を運ぶようになる場所を目指した。



ーコンセプトー

「思い出を映す」

「映画館があったのが懐かしい」という住民の一言をきっかけに、かつて映画館があった場所でキネマの再建を行います。このキネマに足を運び、かつての瀬羽町を思い出せる空間も備えた。



ー平面計画ー



表通りから入ると、帳場に見立てた受付があり、町屋キネマの雰囲気を演出している。そこから伸びるトオリニワはホワイエを経て隣接するぼんぼこさへと続き、周辺との回遊性を持たせた。



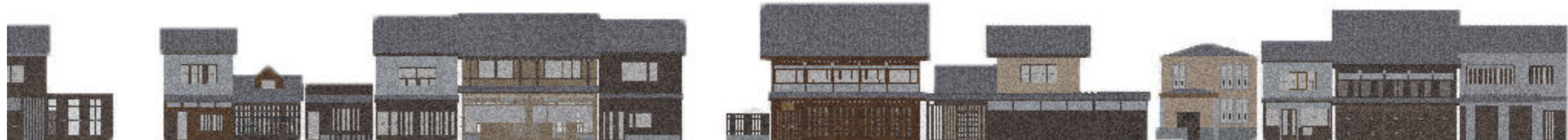
販売ブースでは、売薬の町として栄えた当時を連想させる、薬棚をイメージした計り売り棚を設置した。



小物を展示し、作品をより身近なものに感じられる。



四方を木で囲み、温かみのあるシアター。

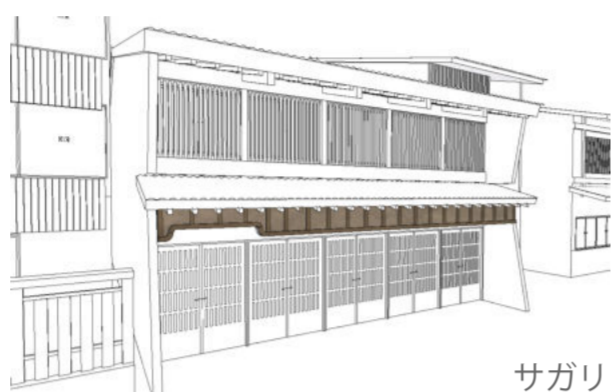


一町並修景一

瀬羽町の町屋造の特徴である、切妻平入、格子、庇、コワキ（袖壁）、サガリ（幕板）などの要素を考慮した修景案を提案する。
 その他、空き地や駐車場となっている場所や車庫の修景パターン、通りに面している部分に対しての間隔の見直しや
 道路の石畳舗装化などの、建物以外での景観の見直しも検討する。



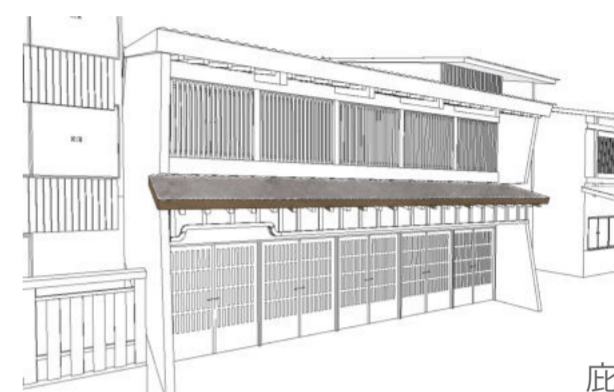
コワキ



サガリ



格子



庇

